



神戸市立烏帽子中学校

令和6年6月3日発行 第 3 号

64 回生学年だより「WITH」

～ 共に学び、共に支えあい、共に感動する学年 ～

5月24日（金）から3日間、長崎・福岡へ修学旅行に行ってきた64回生。昨年度に実行委員会が発足し、ルールづくりから準備をしてきました。それぞれの課題も見つかった修学旅行でしたが、いろいろなことを学び、楽しい思い出もたくさんできました。実行委員の皆さんありがとうございました。準備からご協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

生徒作文「修学旅行を振り返って」

「あはは」「うふふ」と笑いながら始まった修学旅行。

1つ目の研修、平和セレモニーでは、平和について自分なりに考えることができたと思う。「では、平和とは何か」と思ったら、血を流さないこと、みんなが笑顔でいれることなど、研修①をする前まではそう思っていた。しかし、受けた後に「平和とは何か」を考えたら、何もしていない人たちが一瞬にして消えていく、それはとてもダメなことだし、とても悲しいことだなと感じた。だから、自分の中の平和は、みんなが手を出さずに話し合いで解決できる思いやりのある心が大切だと感じた。

研修③のマリンスポーツ体験では、海はとても怖かったし、なめていた。3年分くらいの塩を飲んだ。とても塩辛かった。

研修④のレクリエーションは、楽しかったし、恥ずかしかった。本当なら、キレッキレのダンスのはずなのに、グダグダになってしまった。

大宰府天満宮に行き、受験合格できる気がしてきた。

実行委員長最後のあいさつは、気合入れて書いて準備していたのに、緊張してはきはき言えなかったのが心残りだった。

最後に戦争はしてはいけないし、とても悲惨だなと感じた。
（実行委員長）



1945年の8月6日に広島、8月9日には長崎に原子爆弾が落とされた。それを聞いて私は約80年も前にはこんなきれいな街並みはなく、一面焼け野原になっていてたくさん亡くなった人がいるのだなと思った。今の日本では考えられない飢え死にや被爆での死などで亡くなったと考えると心苦しくなると同時に、今の私たちが当たり前で生活できているのは、昔の人たちにと

って当たり前じゃないと感じた。

修学旅行で行った長崎には、戦争のような悪いことばかりではなく夜景が美しく輝いていたり、住んでいる人たちが優しくったり、食べ物が美味しかったりと良いことはたくさんあった。その中でも一番心に残ったことは、ホテルの人や通りでお店をやっている人たちの優しさだ。店では「どこから来たの?」とか「写真撮ろうか?」などの声掛け、ホテルでは丁寧に教えてくださったり、出発時の「行ってらっしゃい」など、初めて会った私たちを家族のように出迎えたり見送ったりしてくれた。

私が特にこの修学旅行で楽しかったことは、マリンスポーツだ。その中でもバナナボートが一番怖くて迫力があつた。目を開けて前を見るといきなり水しぶきが大量に来て、何かに顔をたたかれているかのような衝撃を感じた。下を見ると、一面真っ青な海で、一度入ったら抜け出せないさそうなくらいだった。

そして、修学旅行ではたくさんのことを学んだ。「当たり前」の大切さや人とのコミュニケーション、戦時中の人々の思いなど現代ではありえなくても昔ではそれが普通だから、そういうことも考えてこれから過ごしていきたいと思う。

（1組）



自分が、この修学旅行を通して一番思ったことは、「もっと恩返しができる人になりたい」ということだ。

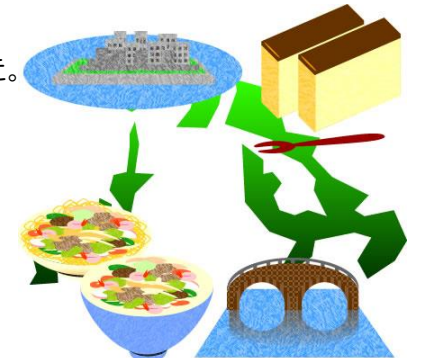
まずは、班別活動では1日目、3日目どちらも大変だった。計画は前から考えてはいたけれど、全員の行きたいところをめぐることは非常に難しかった。特に長崎は広いし、往復で1時間ほどかかったし、帰りは時間との戦いで陸上選手のように走ったので、とてもしんどかった。けれど、今回で気づいたことは、誰しもが必ず我慢をしなければいけないことに加えて、たくさんの下調べが必要だなということだ。我慢をするということは、集団活動において大切だけど、よく調べておけばできる範囲も分かって、その中でどう動いたらいいかを考えることができると思うので、その2つがより大切だと感じた。

次にホテルや民宿での過ごし方が良かったなと思っている。理由は部屋のメンバー、一人一人が協力する姿勢を取っていたことで、それがあつたから、部屋の中で落ち着いて行動できたと思っている。そんな落ち着いていた部屋から見る景色は、まるで部屋から飛び出したくなるくらいきれいで充実したホテルと民宿だった。

良いことだけで終わったわけではなく、もちろん改善点もあった。個人的に見ると準備不足という点が多々見受けられた。朝の時間に余裕がなかったり、班別活動がグダグダだったり準備不足が目立ったので、気を付けたい。

先生も言っていたように僕達はたくさんの人に支えられていた。そして、これから支えられるかは自分次第だと思うので、今回学んだことを地道に返せるようにしていきたい。どんな場面やどんな時でもいいので、学んだことを出して行って、先生や親、そして仲間に恩返しをできたらいいなと思った。

（2組）



5月24日、私がすごく楽しみにしていた修学旅行が始まりました。前日までは自分の考えていたように行動ができるか心配だったけれど、64回生の仲間を見ると、不安がなくなったのを覚えています。新幹線にあまり乗らないから、みんなが急に大人になったみたいに感じました。バスで平和公園に向かう時、バスガイドさんから「シルバーブルー」の歌を教えてくださいました。そして、公園についた時、80年前ぐらいは今自分が見ているこの長崎は長崎じゃないのか、ここで亡くなった方の分も大切に生きようと強く思いました。そして、ホテルに着いて部屋を見るとすごくキレイな和室で、畳の匂いがしました。その時、急にシルバーブルーが頭の中で流れてきました。私はバスガイドさんに魔法をかけてもらったのかと思いました。夜ごはんを食べたかった角煮まんも出て、幸せな一日でした。

2日目の朝、私はホテルのメンバーの声で起きました。時間がギリギリで、気づくと他の班の人がみんな待っていて、絶対次は早く起きようと思いました。本当にごめんなさい。マリンスポーツが2日目のメイン研修ですごく楽しかったです。レクもたくさん練習してくれたのだと伝わりました。ありがとうございます。そして明日は早起きと呪文を唱えるかのようにみんなで言って2日目を終わりました。

3日目、あんなにみんなで言ったからなのか30分前に起きることができました。そして、行くときしんどかった船に乗って福岡に戻りました。帰りはしんどくなくて良かったです。大宰府での班別活動は1日目みたいにはぐれることなく、協力して過ごせました。新幹線に乗って、2日ぶりの神戸を見てすごくホッとしました。

最後に自分が旅行に行って帰って来ることができたのは、親や先生たちのおかげだと思いました。前日まで不安だった自分を思い出せないくらい楽しかったし、これからもたくさん協力して挑戦して感謝を行動で表していきたいです。

(3組)



修学旅行に行く前は九州に行くのはあまり楽しみではありませんでした。先輩たちは、東京や大阪などでテーマパークに行っていたのに、今回はなくてあまり楽しみではありませんでした。ですが、実際に行くとなるととても楽しかったです。特に印象に残っていることが2つあります。

1つ目は、班別行動です。長崎では男女が別々になってしまいました。班のメンバーと、行こうと話していたところには1つしか行けなくて、とても申し訳ない気持ちでいっぱいでした。班がバラバラになった反省を生かし、太宰府天満宮では、待ってほしいときには「待って」と言い、はぐれずに帰ってくることができました。班で行動するのはとても楽しかったです。太宰府天満宮でみんなとおみくじを引き、駅前で班員6人の写真を撮ってもらったので、とてもいい思い出になりました。6人の写真が撮れたのは、ずっとその写真を見ておけるくらい嬉しかったです。

2つ目は、民宿が印象に残っています。民宿先のばあばとじいじは本当の家族のように思えるような人でとてもいい人でした。ばあばが話をしているときに方言が出ていて、関西と違ってかわいいなと思いました。部屋では、寝たくないくらい楽しかったです。話が尽きず、ずっと笑っていました。お風呂の後のドライヤーの仕方が独特でとてもおもしろかったのを覚えています。大体乾いたら「321はい」で交代していました。交代するたびに笑っていたのを覚えています。

このように反省を生かして行動し、友達との時間はとても楽しみました。長崎での反省がなかったら、お互いのことを考えていなかったと思います。普段でもお互いのことを考えて生活していこうと思います。

(4組)

<<3年生6月の主な予定>>

7日	金	進路講演会(私立)
10日	月	3年実力考査
19日	水	対話週間(～25日)
26日	水	期末考査(～28日)

